

平成30年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の学習意欲を高める授業を 実践し、確かな 学力を身に付け させるととも に、表現する 力・伝える力を 育成する。	① 生徒の授業に取り組む姿勢を改善する事により、主体性を引き出し、学力の向上につなげる。	教務課 各教科	昨年度まで「授業が分かりやすい」と答えた生徒は概ね80%を越えており、次の段階として、授業に対する主体的な学びを喚起したい。	【満足度指標】 授業に主体的に取り組めたと感じる生徒が増加している。	授業に主体的に取り組めたと感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	② 対話的な学習を通して知識を相互に関連付け、より深く学習することが可能となる授業を推進する。	教務課 各教科	ICT機器の活用による授業改善は進んできたが、課題に対して教師と生徒、あるいは生徒どうしが意見を出し合っただけで知識の深化に努める学習については、より一層の改善が求められている。	【努力指標】 対話的な学習を通して知識をより深める授業が実践できたか。	対話を通して知識の深化に努める授業を実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場合、改善策を検討する。	前期、後期に教職員を対象にアンケート調査
	③ 授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	教務課 各教科 各学年 生徒指導課	昨年度の調査では「伝える力」に自信を感じる生徒の割合は6割程度に留まっている。学校生活全体を通して発表する場を増やし、改善に努める必要がある。	【満足度指標】 授業を含め学校生活全般を通じて「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒が増加したか。	「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。	教務課 各教科	昨年度は、3種目以上取得者数が20名以上減少し大きな課題を残した。今年度は、検定の新しい傾向も分析し、取得率の向上に努めたい。	【成果指標】 各学年でそれぞれの目標を持ち、資格取得の意欲が向上し、取得につながったか。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 180人以上である B 160人以上である C 140人以上である D 140人未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	年間を通じて調査
	⑤ 家庭学習と授業の連携を図り、学習習慣の確立と学力の向上を目指す。	教務課 各教科	検定試験や定期考査の前は集中して学習するが、日常の学習習慣が確立されていない。	【成果指標】 授業と連動した学習習慣が確立されている。	. A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	年間を通じて調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
2	①	相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	昨年度のアンケートでは、1年生の挨拶に課題が見られた。金商生としての自覚を喚起し、改善に努める必要がある。	【満足度指標】 相手の顔と目を見てさわやかな挨拶ができたか。	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができたと感じる生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	②	生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課 各学年	昨年度は遅刻0の日が134日となり、一昨年の118日を上回った。引き続き基本的生活習慣の確立の視点で目標としていきたい。	【成果指標】 年間を通じて遅刻をせず、始業時間を守っているか。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 120日以上である B 100日以上である C 80日以上である D 80日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査
	③	商業教育実践の貴重な場となっている金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートでは、仕入から販売及び管理・運営など、実践的なビジネス教育の場として位置付けられており、生徒も自覚を持って積極的に取り組んでいる。	【満足度指標】 金商デパートにおいて学校で学んだことを生かしたか。	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かせたと感じる生徒の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査
	④	英語のコミュニケーション能力と活用力の向上に取り組む。	英語科	昨年度は夏季補習や朝学習などの取組が功を奏し全商英検2級取得100名以上の目標を達成することができた。今年度はこれらの取組を継続し、より上位の検定取得につながるよう、授業改善等に努めていきたい。	【成果指標】 英語の基礎的な活用力の向上を測る目安として、STEP英検など、より上位の検定の取得を目指す。	STEP英検準2級（またはそれと同等の資格）以上を取得した人数が前年より A 30%以上向上した B 10%以上向上した C 前年度と同等である。 D 前年度を下回った	評価がC、Dの場合、英語学習が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	年間を通じてSTEP英検準2級以上の合格者数を調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課 (就職) 3学年	昨年度は求人数が大幅に増加し、3年生はこれまで以上に希望する職種を選択できたため、満足度は高かった。一方2年生については、具体的な進路を決めるには段階的に早い分野もあり、評価を見直す必要がある。	【成果指標】 就職希望者において、進路実現に向けて具体的な取り組みができたか。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、3年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進路指導課 (進学) 2学年 3学年	昨年度の評価は3年生が93%と高い評価となっており、満足度が高い一方、2年生は77%と低い数値となっている。就職と比較し、早期からの準備が必要な分野も多いことから、体制の改善に努めていきたい。	【成果指標】 進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めたか。	進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めたか。 A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査
	③ 1・2年生に対して進路ガイダンスを計画的に行い、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 第1学年 第2学年	昨年度の評価はD評価であった。早い段階から希望進路への取組内容を吟味・充実する必要がある。	【成果指標】 1・2年生において、希望する進路に向けた具体的な進路希望を設定することができたか。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、1・2年生の生徒を対象にアンケートを調査

自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	昨年度は女子バレーボールの他9部が「ベスト4」以上を達成している。この成績を維持していきたい。	【成果指標】ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができたか。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝のべ4競技以上を目指す。	特活課 商業科	昨年度県大会では、珠算・電卓競技など商業部が活躍し、文化部でもかるたや吹奏楽部などが全国大会に出場した。今後もこの成績を継続していきたい。	【成果指標】団体での優勝が、目標を上回ることができたか。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	部活動単位など既存の学校組織でボランティアに取り組む事例は多いが、個人的な活動は弱く、昨年度の評価はCとなった。学校全体としての啓発活動が必要。	【成果指標】各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めたか。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	保健課	校内美化については、概ね良好な状態を保っているが、節電についてはまだまだ意識は低く、一層の改善が必要。	【成果指標】美化委員会を中心に清潔な環境の維持に努め、清掃・節電・節水やゴミ分別の意識を高められたか。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起さない学校づくりに努める。	全教職員	いじめに関しては、調査に載ってくる事案のみならず、潜在的に重大事に至るものを事前に察知することが大切である。しかし多くは事後対応になっており、対策が必要である。	【努力指標】いじめの未然防止に向け、校内巡視や情報の交換・共有を意識的に行っている。	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、啓発活動などの改善策を実施	前期、後期に全教員を対象にアンケート調査

自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
5 教職員の多忙化に向けて、業務の改善に取り組む	働き方改革の主旨に則り、業務改善に努め、教職員の残業時間の解消に繋げる。	全教職員	80時間を超える残業を行っている教員が、業務繁忙時期によって複数名見られる。	【成果指標】 80時間を超える残業を行っている教職員の数の削減	年間を平均して、1月当たり80時間以上を超える残業を行っている教員の A 0人ある B 1人である C 2人である D 3人以上いる	評価がA以外の場合、対策を検討	毎月の残業記録の集計結果